

3. 「防災まちづくり」の目標

学区全体で、「防災まちづくり」に継続して取り組んでいくため、正親学区のまちの成り立ちや現状・課題、これまでの取組の中でお聞きした住民のみなさんの想いを踏まえ、目指すまちの将来像や「防災まちづくり」の基本方針など「防災まちづくり」の目標を定めます。

(1) 目指すまちの将来像

地域の絆を深め、みんなでつくる 安心・安全、住みよきまち 正親

私たちの暮らす正親学区では、古くからの歴史に培われ、形づくられてきた京都らしい町家やトンネル路地などの町並みや風景が、先人たちから守り・育まれてきました。今までどおりの安全で暮らしやすいまちを大切にしつつ、世代を問わず、地域 みんなが日頃から声をかけ合い、協力しながら、未来に向けて災害につよく安全・安心な住みよいまちをつくっていきます。

町並み・風景

- ・路地や長屋、トンネル路地等の町並みや風景を維持していきたい！
- ・古い町並みが美しく保たれている！
- ・古い町並みと人情がある！

安心・安全

- ・今までどおり安全なまちがいい！
- ・「世代を問わず、みんなが安心できる」まちにしたい！

住民のみなさんの想い

コミュニティ

- ・人と人とのつながりが強い！ 地域のコミュニティが深い！
- ・コミュニケーションが充実し、町内会がしっかりしている！
- ・「みんなが笑顔であいさつできる」まちにしたい！
- ・町内での各世帯の結びつきが強い！
- ・お年寄りが子どもたちを大切にしてくれてありがたい！
- ・「みんなが笑顔であいさつできる」まちにしたい！
- ・若者から高齢者まで、みんなで一緒に住み続けたい！

(2) 防災まちづくりの基本方針

目指すまちの将来像を実現するため、「いえ」、「みち」、「まち」、「コミュニティ」の視点から、「防災まちづくり」の基本方針を以下のように定めます。

「いえ」

(P23 参照)

方針1 | 家の中の安全対策に取り組む

方針2 | 地震や火災に強い家づくりに取り組む

方針3 | 空き家等対策に取り組む

「みち」

(P24 参照)

方針4 | 災害時の避難経路を確認・共有する

方針5 | 路地を日頃から適切に管理する

方針6 | 安全に避難できる「路地」をつくる

方針7 | 骨格となる道の安全性を高める

「まち」

(P25 参照)

方針8 | 安全な避難場所をつくる

方針9 | 身近な地域の防災環境を整える

方針10 | 路地の雰囲気将来につなぐ 路地単位の計画づくりを進める

「コミュニティ」

(P26 参照)

方針11 | 町内会の防災力を高める

方針12 | コミュニケーションを充実する

方針13 | 「防災まちづくり」の体制を整える

正親学区の現状や課題、市街地の特性等から、
どんな取組が必要か確認しましょう！



ひにゃんこ



ふくろうじい

「いえ」に関する基本方針

耐震性に不安がある建物や
路地が入り組んで建物が密集
しているところもあるね。



空き家やゲストハウスも
増えてきているね。



地震が起きて建物が倒れた
り、火災で火が燃え広がった
りする危険があるんだよ。

空き家も適切に管理し、
地域で見守り、活用する
ことが大切だね。



方針1 | 家の中の安全対策に取り組む

- ▶一人ひとりが、災害が起こった時に自宅から逃げ出せるよう、家具の転倒防止や火災報知器、感震ブレーカーの設置など、できるところから家の安全対策を進めましょう。
- ▶小学校では、地域と連携しながら、「防災まちづくり」に関する学習に取り組みます。

方針2 | 地震や火災に強い家づくりに取り組む

- ▶耐震診断、耐震・防火改修を行うなど、自宅を地震や火災につよい家にしましょう。
- ▶借家については、所有者との連携のもとで、耐震化・防火対策を進めましょう。

方針3 | 空き家等対策に取り組む

- ▶空き家所有者は、空き家をそのまま放置せずに、事業者等と連携して適正な管理や活用に取り組みましょう。
- ▶学区と町内会等が連携して、空き家の情報を把握・管理します。
- ▶ゲストハウスについては、管理者とのコミュニケーションを図り、常時の管理・運営方法等に加え、災害時の対応を確認しましょう。

「みち」に関する基本方針

幅が狭い道や行き止まりの道が多くみられるね。
自転車やプランターが適切に管理されている路地もあるね。



幅の狭い道や行き止まりの道では、地震で家や塀が倒れて通れなくなったり、道に物が置かれていてうまく逃げられないこともあるんだよ。



方針4 | 災害時の避難経路を確認・共有する

- ▶一人ひとりが、自宅から「地域の集合場所」、「地域の集合場所」から「避難所」までの避難経路の安全性を確認しましょう。
- ▶町内ごとに、掲示板に避難経路などを示した地図を掲示するなど、町内全体で災害時の避難経路を周知・共有しましょう。

方針5 | 路地を日頃から適切に管理する

- ▶一人ひとりが、日頃から植木や自転車などを整理整頓しましょう。
- ▶路地の適正管理を呼び掛け、必要に応じて適正管理のルールをつくりましょう。

方針6 | 安全に避難できる「路地」をつくる

- ▶袋路は緊急避難扉の設置など2方向避難の確保、始端部建物の耐震化・防火対策を進めます。
- ▶路地の段差の解消や古いブロック塀の改善などにより路地の安全性を高めます。
- ▶災害時に安全に避難ができるように、路地の入口に、袋路（行き止まりの路地）か抜け路地かがわかるように表示します。

方針7 | 骨格となる道の安全性を高める

- ▶中立売通などの市の広域的な幹線道路、一条通などの学区の防災上重要な道路、土屋町通などの避難を支える大きな道路につながる道の沿道建物の耐震化・防火対策を進めます。
- ▶学区内の災害時の避難を支える大きな道路につながる道で、4m未満の箇所は建替え時にセットバックを行い、道路状の整備を進めます。

「まち」に関する基本方針

正親には公園や広場が少ないね。駐車場や空き地など、一時的に避難できる空間が身近にあるといいね。



地震などの災害が起きたときに集まれる場所をつくることとあわせて、消火器や防火バケツなどの防災設備があることも大切だね。



方針8 | 安全な避難場所をつくる

- ▶避難所（正親小学校）の防災機能の維持・充実を図ります。
- ▶辰巳公園など、一時的に避難できる身近な場所を確認・共有しましょう。
- ▶平面駐車場や空き地、お寺、パチンコ店などの安全な大型店舗など、災害時に避難できる身近な場所を確認し、所有者などに対して災害時の一時的な避難への協力を呼び掛けます。
- ▶「防災ひろば」など、災害時の避難や延焼防止に役立つ空間をつくります。
- ▶各町内の「地域の集合場所」を一人ひとりが確認するとともに、地図や看板などを作成しながら、町内で周知・共有します。

方針9 | 身近な地域の防災環境を整える

- ▶災害時に使える井戸の確認や、防災ベルなどの整備、消火器や防火バケツなどの定期的なメンテナンスを行うなど、町内の防災機能を高めましょう。
- ▶マンション管理者に対して、災害時の安否確認や避難に関するルールをつくるなど、災害時の安全確保に向けた取組を呼び掛けます。
- ▶学区が事業者等と連携して、災害時にも使用できる災害救援自販機の設置を進めます。

方針10 | 路地の雰囲気将来につなぐ 路地単位の計画づくりを進める

- ▶路地や建物が密集するエリアでは、住民のみなさんや土地所有者等との話し合いを重ね、路地の雰囲気を残しながら建物の維持・更新がしやすい環境づくりなど、それぞれの路地の特性にあった災害につよい路地単位の計画づくりを進めます。

「コミュニティ」に関する基本方針



高齢化が進んだり、マンションが増えているからこそ、地域内の交流が大切だね。

地域の絆を深めることで、いざというときに助け合うことができるね。



方針 11 | 町内会の防災力を高める

- ▶一人ひとりが、日頃から防災意識を持ち、災害への備えを進め、町内会や学区の防災の取組に関心を持ちましょう。
- ▶一人暮らしの高齢者などの把握、見守り、災害時の安否確認、避難などのルールや仕組みを整えましょう。
- ▶消火器や防火バケツの適切な配置・維持管理、防災訓練や夜間の見回りなど、町内会の自主的な防災活動を進めましょう。
- ▶住民に町内活動への参加を広く呼び掛けながら、危険な場所の確認など、災害時に役立つ情報の把握・共有に取り組みましょう。
- ▶町内会は、お寺の一時的な避難場所としての活用や、商店会などと連携した耐震化の呼び掛けなど、地域の防災力を高める取組を進めましょう。

方針 12 | コミュニケーションを充実する

- ▶町内会は、災害時に安否確認や避難誘導などの救援活動がスムーズに行えるよう、マンションや空き家所有者、ゲストハウス管理者との日頃からのコミュニケーションを大切にしましょう。
- ▶災害時の安否確認などに備え、様々な機会で情報発信を行いながら、マンション住民などの町内会への加入を促進しましょう。
- ▶日頃からのコミュニケーションを活かしながら、メールや電話、SNS など様々な手段による緊急時のネットワークを整えます。

方針 13 | 「防災まちづくり」の体制を整える

- ▶町内の防災リーダーの育成や自主防災会との情報共有など、学区と町内会の連携を充実します。
- ▶学区の行事と連携して、住民のみなさんの意見を定期的に把握・共有する機会をつくります。
- ▶災害時に備え、緊急支援物資の提供や住民の避難等に関して、学区内のスーパーや薬局などとの連携を維持・充実します。

防災まちづくり方針図

市の広域的な幹線道路

方針7

- 千本通や中立売通などは、市を広域的に通過し、災害時の救援活動や物資輸送等を支える重要な道路でもあるため、沿道の大規模な建物の倒壊や延焼が災害時の避難の障害とならないよう耐震化・防火対策を進めます。

避難を支える大きな道路につながる道

方針7

- 土屋町通や仁和寺街道などは、身近な町内の生活を支える道として学区内を通過し、防災上重要な道路への避難経路となるため、沿道建物の耐震化・防火対策を進め、4.0m未満の道については、建替え時に合わせて幅員を確保します。

学区の防災上重要な道路

方針7

- 一条通や浄福寺通などは、隣接する学区を含め、学区全体を通過し、災害時の住民の避難を支える重要な道路となるため、沿道建物の耐震化・防火対策を進めます。

延長の長い通り抜けの路地が多いエリア

方針6

- 安全に避難できる「路地」をつくります。
▶袋路等始端部の耐震化・防火対策、古いブロック塀の改善など

方針7

- 骨格となる道の安全性を高めます。
▶避難経路となる道の幅員の確保、道路状の整備など

方針8

- 安全な避難場所をつくります。
▶空き家を除却した跡地、空き地等を活用した「防災ひろば」の整備など

⇒ P29. エリア別計画

幅の狭い袋路が集中するエリア

方針10

- 路地の雰囲気将来につなぐ路地単位の計画づくりを進めます。
▶路地の雰囲気を残しながら建物の維持・更新がしやすい環境づくりなど、路地の特性にあった災害につよい路地単位の計画づくりなど

⇒ P31. エリア別計画

延長の短い袋路が集中するエリア

方針6

- 安全に避難できる「路地」をつくります。
▶袋路始端部の耐震化・防火対策、2方向避難の確保、建替え等が難しい幅が狭い袋路に合った対策など

方針7

- 骨格となる道の安全性を高めます。
▶避難経路となる道の幅員の確保、道路状の整備など

⇒ P30. エリア別計画

路地が少なく、幅の広い道路が通過するエリア

方針6

- 安全に避難できる「路地」をつくります。
▶袋路始端部の耐震化・防火対策など

方針8

- 安全な避難場所をつくります。
▶避難所の防災機能の維持・充実、一時的に避難できる身近な場所の確認など

⇒ P30. エリア別計画

方針8

- 正親小学校の避難所としての防災機能の維持・充実を図るとともに、辰巳公園など、一時的に避難できる身近な場所を確認・共有します。

